

'19 内部監査実務 マスター・コース

— 課題分野ごとの講義と自由討議で実務に役立つ内部監査の知見を習得する —

開催主旨 — 藤井講師からのメッセージ —

本マスター・コースは内部監査の実務家向けのコースです。最近日本でも内部監査の重要性がだんだんと認識されてきて内部監査にも経営のニーズに応じた進化が期待されています。しかし、その実務の進め方という具体的な指針には限りがあります。本コースでは、内部監査をはじめ様々な実務経験や参考となりそうなIIAの指針を踏まえて講師が勘どころとなる監査実務の進め方や対応方法あるいは参考となる事例をたたき台として紹介します。更にその後の質疑応答や自由討議を通して参加者の理解を深め、各自の課題解決の一助となること目的としています。各会のテーマに関心のある方や内部監査の実務のポイントを体系的に習得したい方にぜひご参加をお勧めいたします。毎回違うテーマを扱いますので一日単位の参加も歓迎いたします。

講師

公認会計士・公認内部監査人 米国公認会計士(現在 inactive) **藤井 範彰 氏**

会計監査を約20年続ける中、アンダーセンでは監査アプローチの研修・普及活動や公認会計士協会本部の活動(国際委員会副委員長、会計制度委員会副委員長、監査基準委員会委員他)にも専念。続く10余年は、内部監査、内部統制、リスクマネジメント、不正調査に特化し、アンダーセン消滅後は朝日監査法人代表社員を辞してPwC(中央青山監査法人)に移り代表社員も務め、J-SOXの制度化を前に復帰した新日本監査法人(E&Y)で内部統制支援本部統括部長、ビジネスリスクサービス部長、FIDS(不正対策・係争サポート)部長等を歴任。2012年、シニアパートナーを早期退任し、ボルボ・グループで日本の内部監査統括を務め、同グループ会社UDトラックス(株)の監査役を今年まで続け、現在、藤井範彰公認会計士事務所として内部監査や不正対応・ガバナンス関連の講演や研修及び執筆活動に従事。



【最近の著書】

「内部監査のブログが書く監査報告書の指摘事項と改善提案」同文館出版2016年で2017年度日本内部監査協会青木賞受賞。他にも著書「内部監査の課題解決法20」2012年税務経理協会、論文「内部監査のアシュアランスの本質論」日本内部監査協会月刊監査研究2018年7月号、「内部監査報告書の本質論と実務対応」同2017年5月号等多数。

開催予定日

'19 9月4日 (水)	10月3日 (木)	11月7日 (木)	12月5日 (木)	'20 1月16日 (木)	2月6日 (木)	3月12日 (木)	4月9日 (木)	5月14日 (木)
--------------------	--------------	--------------	--------------	---------------------	-------------	--------------	-------------	--------------

スケジュール ▶ I. 講 義 14:00~16:30

II. 自由討議 16:30~17:00(毎回、藤井講師も参加します。)

※講義をベースに自由討議・意見交換の中から課題解決のノウハウ、ヒントを探り実践に繋げていただきます。

会 場 ▶ 第1回(9/4)……一般社団法人 企業研究会 セミナールーム(東京・麹町)

第2~9回……主婦会館プラザエフ(東京・四ツ谷)

第1回

'19
9/4(水)
14:00~16:30

内部監査のレベルを決める監査計画の実務

~個別監査の計画と年次の計画で押さえておきたい作業のポイントと実施手順

監査の出来栄は計画段階で相当部分が決まります。内部監査のニーズや経営層からの期待が高まる中でまず改善を考えるのは監査計画の実務です。それも年次のリスク評価も含めた年次の監査計画から個々の監査の計画まで一連の実務の手順やそこで作成される文書の様式を整えると共に、それぞれの段階で問題となる論点を押さえることが大事です。第1回ではこうした監査計画の全体のレベルアップを念頭において参考事例も紹介しながら、その考え方と実務の進め方を取り上げます。

1. 年次のリスク評価から監査計画の策定までの作業手順と実務論点の検討

・経営に資する監査の体制とリスクベースの監査を計画する際のポイント

2. 個別監査の計画作業において作成する文書と作業のポイント

・個別監査の前提となる共通ルールの策定と個別の計画文書の標準化など

◎講義をベースとしたディスカッション◎

16:30 ~ 17:00

第2回
10/3(木)
14:00~16:30

内部監査のプロが書く監査意見とそれを支える監査アプローチ ～わかりにくい内部監査の保証の意見表明とそれを支える監査作業の在り方をわかりやすく解説

一般に監査の中心は保証業務(アシュアランス)にあると考えられ、その結論は監査意見として監査報告書で報告されます。しかし実務ではロジカルな監査意見になっていない例もよく見かけます。内部監査は社内監査なので社内で問題にならなければそれで良いという考え方もあるでしょう。しかし、監査の根幹をなすアシュアランスについて、その専門部署である監査部がその基本がわかっていないとすれば、あまりに恥ずかしいことです。また監査のプロと言っても内部監査には公認会計士の監査には無い独自の論点と実務展開の仕方があって、IIAにも指針はありますが、これだけで十分とは思えません。今回はアシュアランスにおける監査意見の考え方と実務に使える標準的な文例を提示すると共に、その前提となる典型的な内部監査のアプローチを紹介します。

1. 監査の価値を決めるコンサルとアシュアランスの実務への落とし込み
2. 内部監査報告書の監査意見の標準類型とそれぞれの考え方および報告書の全体様式
3. 監査の内容に整合した改善提案型の内部監査アプローチのデザイン

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30 ~ 17:00

第3回
11/7(木)
14:00~16:30

インパクトのある指摘と改善提案を導くスタンダード ～指摘と改善提案にインテリゼンスを与えて専門的な作品に仕上げる規律とルール

内部監査の価値を決定づけるのは、いかに経営にインパクトのある報告書を提示できるか、特に指摘事項・改善提案の出来栄です。今回は主に業務監査における指摘事項と改善提案の切り出し方、書式、文章表現など標準例を具体的な事例を提示して各社が体系的なスタンダードを作る材料を事例形式で提供します。この分野はIIAその他の実務指針が少ないこともあって、あまり検討もせずに社内の慣行を踏襲している企業が多く、それだけに見直しの効果は潜在的に高い領域です。これまで習慣的に続けてきた報告書の書き方を体系的に整理して改善するきっかけにしてください。

1. 業務監査における指摘・改善提案を導くロジックの組み立てと記載内容
・改善提案の3つのパターン、指摘事項に説得力を与える構成要素、リスクの記載要領など
2. 事例から感じ取る指摘と改善提案の勘どころ
・ケーススタディによる良い例・悪い例の検討

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30 ~ 17:00

第4回
12/5(木)
14:00~16:30

内部監査による不正対策への取組み ～チェック機能だけではない内部監査に期待される企業不正への対応実務

企業の不正事件が相次いで報道され内部監査や内部統制の強化に関心が集まる一方で、事故が起こってない中で直接利益を生まない不正対応にそれほど手間をかける余裕はないと考える企業も少なくないようです。しかし起こってからの事後対応では不正防止に比べて格段に高つくという統計データも出ています。他方、日本では不正は法令違反の問題として内部監査による法令順守の徹底という図式で内部監査のチェック機能が期待されますが、企業不正には様々な側面があるし、内部監査の関わり方についてもそれほど単純ではないのです。また特に会計不正では会計士ばかりがやり玉にあがる傾向もあります。そういう状況下で、日本の不正のパターンおよび監査や内部統制の制度を踏まえて、企業不正に対して内部監査は何ができるか、今後どのような対応を検討すべきか、これが今回の課題です。

1. 日本における不正パターンの類型と最近の企業風土型不正の特徴
2. 会計士が会計不正で批判される背景と会計監査や内部統制報告制度(J-SOX)の限界
・監査のリスクアプローチと制度設計をめぐる問題とその背景にある監査風土の弱さ
3. 内部監査による不正対応活動への関わりと実務のポイント
・不正リスク評価、不正監査、不正調査、通報対応、内部統制のレビュー

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30 ~ 17:00

第5回
'20
1/16(木)
14:00~16:30

日本企業の海外リスクを考えた内部監査の戦略 ～日本企業の苦手な海外事業管理に対して、内部監査は何をすればよいか

経営の国際化が進みグローバルな視点からのリスク管理やガバナンスが重要となる一方で、日本企業の海外リスク対応の遅れが指摘されています。定型的な海外の業務監査は増えても、海外リスクに対応した戦略的な動きは少ない中で、欧米企業とはガバナンスや風土も違う日本企業の海外リスク対応に対して、経営を支える内部監査としては、何をすればよいかを喫緊の課題です。海外監査実務の詳細は今回のテーマですが、それに先立って、まずは日本企業一般に見られる海外リスク対応の問題点を検討し、従来型の海外監査のどこに問題があるかを考えます。その上で、戦略的に何をしに海外に行くかという監査の目的や戦略を、業務領域だけでなくガバナンスやリスク管理などの経営監査も広く視野に入れて検討します。

1. 日本企業に見られる海外子会社のガバナンスの課題
2. 日本企業によるこれまでの海外内部監査の特徴と今後の課題
3. ガバナンスとリスク管理を意識した海外監査の切り口と対応方法

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30 ~ 17:00

第6回

2/6(木)

14:00~16:30

失敗しない海外監査の進め方

～海外監査に固有の課題認識と対応策の解説、および問題事例の検討

海外子会社の内部監査には言葉の壁や法制度や文化の違いなど国内とは勝手が違う難しさがあるため、一段と高い監査の対応能力が必要です。しかしそこには進め方のコツがあって、問題となりやすい課題を意識して対応策を講ずることで失敗を避け、監査の出来栄も良くなります。今回は一般的な海外出張型の内部監査を中心に、海外監査を成功に導く実務上の留意点を具体的に解説します。とりわけ海外で問題になりやすい事項を想定して、監査の事前準備から計画、往査および報告までの全工程にわたって事例を含めて検討していきます。また、中長期的な視点からの海外監査の監査体制のあり方もグローバル監査体制までを視野にいれて解説します。

1. 海外監査チームによる海外監査の課題と対応策
・チーム編成、事前アレンジ、作業ステップと日程管理、監査アプローチ、監査報告会と監査報告書 など
2. 国内監査とは勝手が違う海外監査で気を付けたい特徴的な問題対応
3. 海外監査の成熟度を考慮した中長期的な監査体制構築のポイント

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30～17:00

第7回

3/12(木)

14:00~16:30

英文監査報告書の実務

～英文の報告書の標準文例と指摘・改善提案の事例、知っておきたいビジネス英語

海外監査を完結させるのは監査人が自ら書いた英文レポートです。たびたび海外の監査に出かけていても英語で監査報告書を書くのは自信が持てない内部監査人は少なくなく、報告書作成の外部委託も見られます。その背景には参考となる事例や文献が少なく実務研修の機会がないなどの事情があります。英文報告書は海外監査に残された最後の課題のようでもあります。英文も含めて報告書の作成までが内部監査人の仕事です。そこで今回は英文内部監査報告書の様式例や指摘・改善提案の事例を特に国内では見かけない指摘事例を交えて、留意点を説明いたします。また監査プロフェッショナルとして知っておきたい内部統制や監査に使う英語表現およびビジネス英語の流儀や間違いやすい英文法の問題など時間の許す限り紹介します。

1. 英文内部監査報告書の様式と標準文例
・英文監査報告書の書式、構成および記載項目の考え方
2. 指摘事項、改善提案の英文事例の検討
・指摘・改善提案の英文事例によるロジックと文章表現
3. 監査プロフェッショナルとして知っておきたいビジネス英語の流儀
・内部統制や監査に使う英語表現、日本人が間違いやすい英語、監査人が留意すべきビジネス英語など

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30～17:00

第8回

4/9(木)

14:00~16:30

重要性を帯びるガバナンスとリスクマネジメントの監査

～業務監査では手が届かない組織運営の監査の方向と実務展開

子会社や部門の組織活動の監査では意思決定構造など業務コントロールとは違った観点や監査対応が必要となります。また本社の間接部門の監査でも業務プロセスとは異なる組織的な視点が重要です。これらの場合に重要となるのが、ガバナンスやリスクマネジメントの監査です。IIAの内部監査の定義でも、組織のガバナンスやリスクマネジメントは、コントロールと並んで重要な監査領域とされています。ですが、多くの企業ではその監査アプローチは未開拓のままです。しかし、昨今の大企業不正事件はJ-SOXの実効性にも疑問を投げかけており、この領域の監査方法の整備は、内部監査のレベルアップという以上に、内部監査部門の責任として急務と考えられます。ガバナンスとリスクマネジメントはもとより経営的なインパクトが大きいだけでなく、昨今、企業風土への監査対応など不正や不祥事対策という点から世界的にも注目されています。しかし準拠性監査の延長線上のような方法からうまく脱皮できていない企業もあるようです。今回は、ガバナンスやリスクマネジメントをどのように捉えて監査するか、IIAの指針なども参考にしながらその現実的な対応方法を検討します。

1. リスクマネジメントの視点から切り出す監査アプローチ
2. ガバナンス志向経営監査の着眼点と展開方法
3. 統制環境と組織風土に対する監査対応

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30～17:00

第9回

5/14(木)

14:00~16:30

経営者を戦略面から支える経営監査の手法

～経営層とバッティングしない経営監査の捉え方と実務展開

業務監査に比べると、経営に近い領域で問題を提起し改善を促す経営監査は、経営へのインパクトが大きく、貢献度も高いのは当然です。しかしその実務は日本ではあまり根付いておらず、むしろ内部監査の守備範囲を逸脱するとみなして遠ざけたり、経験・ノウハウ不足でうまくできていないケースが見られます。こうして経営監査の捉え方・進め方が実務のネックになっている状況を踏まえて、今回は経営監査が理論的にも内部監査の枠内できちんと説明でき、かつ実務的にも経営戦略を支援する活動として十分展開可能だということを実際の進め方を紹介しながら解説いたします。典型的な経営監査とは、この事業部がなぜ赤字から脱却できないのかとか、この子会社はどのようなビジネス構造で事業に失敗したのかなどの疑問に対して事業体全体のビジネスモデルやリスクの分析から解決の方策をさぐるという監査です。これをビジネスモデル型経営監査と位置付けてその考え方やアプローチを解説し、事例などを通して具体的な方法を検討します。

1. 経営監査の切り出し方 - 業務監査との違いをサポートする論理と実務の整理
2. ビジネス・アプローチ型経営監査の進め方 - 監査アプローチと留意点
3. 経営監査の指摘や改善提案の事例解説 - 実際例から理解する経営監査のポイント

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30～17:00

過去開催の参加者の声

- 非常にタイムリーな講演内容で大変参考になりました。新任内部監査人にも聞いてもらいたいと思いました。また全員参加が意識できる規模で大変良かったと思います。
- ご経験に基づいた説明で体系的に纏められており大変役に立ちました。
- 豊富な事例を元に説明して頂き大変参考になりました。資料も大変充実していました。
- 経営監査と業務監査の目的、対象の違いを構造化して理解できました、有難うございました。
- 参加他社の業種とのディスカッションに刺激を受けました。
- 普段考えていることが体系的に整理することが出来てとても参考になりました、有難うございました。
- 問題意識をもって参加させていただいた内容とマッチしていて大変参考になりました。
- 監査テーマ選定におけるリスクアシュアランスマップの考え方やガバナンス監査の成熟度モデルでの判定など、弊社でも検討観点として取り入れてみようと思います。
- 監査用語の定義を明確にした上での講義で大変わかり易かったです。

参加要項

受講料

正会員	一般
216,000円 (本体価格200,000円)	237,600円 (本体価格220,000円)

日時・テーマにより代理の方の出席も可能です。

一日単位での受講も可能です。 ※通信欄の受講希望日にをご記入下さい。

正会員:32,400円(本体価格:30,000円) / 一般:35,640円(本体価格:33,000円) × 参加日数

申込方法

下記申込書に所定事項ご記入の上、FAXにてお送りいただくか、下記担当者あてEメールにてご連絡下さい。

また、当会ホームページからもお申し込み頂けます。 [企業研究会 内部監査実務マスター・コース](#)

- ◆着信確認のご連絡後、受講票・請求書をお送りします。
- ◆お申込後のキャンセルはお受けしかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理の方のご出席をお願いいたします。

お申し込み・お問い合わせ先

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-7-2 MFPR麹町ビル 2F
TEL: 080-2102-1604 FAX: 03-5215-0951 E-mail: ishиро@bri.or.jp
一般社団法人 企業研究会 経営管理研究グループ 担当: 居代

FAX:03-5215-0951

2019年 内部監査実務マスター・コース 申込書

事業コード: 190188

申込日 年 月 日

会社名				
会社所在地				
TEL	FAX			
所属・役職名	氏名(フリガナ)			
E-mail				
受講希望 (いずれかに <input checked="" type="checkbox"/> 印をご記入下さい)				
<input type="checkbox"/> 全講座参加	<input type="checkbox"/> 第1回(9/4休)	<input type="checkbox"/> 第2回(10/3休)	<input type="checkbox"/> 第3回(11/7休)	<input type="checkbox"/> 第4回(12/5休)
<input type="checkbox"/> 第5回('20/1/16休)	<input type="checkbox"/> 第6回(2/6休)	<input type="checkbox"/> 第7回(3/12休)	<input type="checkbox"/> 第8回(4/9休)	<input type="checkbox"/> 第9回(5/14休)

※ご記入いただいた個人情報は、本セミナーに関する確認、連絡、及び、当会主催セミナー等のご案内に利用させていただきます。